

新興感染症発生・まん延時における医療分野の評価及び今後の取組方針

[部会の主な意見]

- 1 医療機関の移転や地区体制の変化もあるので、地域別の数値も見える形でデータを追加していく必要があるのではないかな。
- 2 ほぼ全項目で目標は達成しているが、ハードとソフトを結びつける入院調整マニュアル等の整備や内容の検討を進めていく必要がある。
- 3 医療人材派遣人数については、数字的に現場の医療人材不足との乖離を感じるなので、毎年確認していく必要がある。

取組と指標の整合性 (セオリー評価)	・ 引き続き、整理・検討を行う。各都道府県の医療計画と比較を行い、セオリー評価の検証を行うことも1つの方向と考える。
取組の実施状況 (プロセス評価)	・ 継続した取り組みが必要。医療人材派遣の施策については、医療現場では職員の離職により病床が閉鎖になったりして人材不足のところがあるため、取り組みを強化すべきである。
指標の進捗状況 (インパクト評価)	・ 令和6年度の結果だけしかないため、インパクト評価を判断するのは困難である。 ・ 量的な指標がほとんどで、質的な指標が少ない。
今後の取組方針 (総合評価)	・ 令和6年度から取組が開始したばかりであり、取組を継続しながら推移をみていく必要がある。 ・ 医療人材の派遣並びに入院調整、臨時の医療施設及び入院待機施設の設置及び運営の流れの確認については、取組を強化する必要がある。